

神と共に歩む生涯

創世記五章

エノクはメトシエラをもうけた後、三百年、神と共に歩み、息子、娘をもうけた。……合わせて三百六十五年であった。エノクは神と共に歩み、神が取られたのでいなくなった。(22〜24)

この章はアダムからノアまでの系図が坦々と記されています。どの人の生涯も、生まれて、何十年生きて、子をもうけて、何歳で死んだという同じ記述がなされています。その中でただ一人、エノクだけは「死んだ」で終わらず、「神が取られたのでいなくなった」と記されています。そして何より、「神と共に歩み」と繰り返されています。私たち人間が神と共に歩むということは、神が私たちと共に歩んでくださるという事実があつてこそ成り立つものです。エノクは、神が私たちと歩調を合わせるように共に歩んでくださることを信仰を持って受け止めたのです。他の人と変わらない平凡な生活の中に、神が生きて共におられることを信じ抜いたのです。新しく迎えたこの一年、私たちもエノクのように神と共に歩む日々を送らせていただこうではありませんか。